

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671600260
法人名	社会福祉法人睦会
事業所名	ラ・フォーレ天童グループホーム
訪問調査日	平成 20年 7月 29日
評価確定日	平成 20年 9月 5日
評価機関名	協同組合オール・イン・ワン

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	671600260
法人名	社会福祉法人睦会
事業所名	ラ・フォーレ天童グループホーム
所在地 (電話番号)	山形県天童市大字道満176番地1 (電 話) 023-658-8707

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町4-3-10		
訪問調査日	平成20年7月29日	評価確定日	平成20年9月5日

【情報提供票より】(20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤	4人, 常勤換算	12.2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	ほぼえみ24,900円さくら39,000円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 250 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 150 円/2回	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋野病院 柴崎歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

系列法人の老人保健施設・ケアハウスと同じ敷地内にあり、グループ内の連携には想像を要しない。天童市の北部に位置し近所には河川があり自然に満ち溢れた四季折々の季節感を楽しめる地域にある。温泉を利用し、全館床暖房であり東北の冬にはありがたい施設である。当然お風呂は温泉であり蛇口をひねればかけ流しの温泉が楽しめる。ユニットごとに個性的な建物の構造で、1つは中庭があり、中央にシンボルの紅葉、他方は高い天井に天窓で広き空間を演出し、窓から神社の桜、四季折々の景色が楽しめる。運営者は個々の職員のアイデアを尊重し、法人内の経験や、実績を生かし本人本位のケアが出来るよう取り組んでいる。ユニットごとの月1回のお便りには行事や利用者の表情や暮らしぶりが分かるように利用者個々の写真を掲載し、事業所ならでわの介護・看護の情報などの掲載には職員の方の日々の努力・配慮が見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部4)
		前回の評価では地域に根ざした事業所独自の理念の構築という点で、今回は地域から必要とされる事業所を目指し理念の検討が行われ、事業所独自の理念になっている。
重点項目	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
		自己評価については、事業所のあり方や、個人のサービスのあり方の自己点検として活用し、職員相互で話し合い作成し、主任が点検し管理者が確認している。前回の評価については運営推進会議に報告し、事業所の理念については外部評価を基に改善する事ができている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6)
		運営推進会議は年4回開催され、自己評価及び外部評価について報告し、グループホームの生活状況など理解される状況になっている。その上で、災害対策や事業所便り、医療機関との連携など報告し意見をいただいている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
		事業所が出来ること、出来ないこと、家族の協力が必要なことを忌憚なく家族等に話すことにより信頼関係を構築し、意見苦情を言ってもらえるような関係が出来ている。苦情窓口の告知や、意見箱の設置など意見を表せる機会を設け、家族等の意見苦情については迅速に対応策を改善委員で話し合い結果を伝え、運営推進会議に報告するとともに法人の理事会、評議会に報告している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
		地域の文化祭、盆踊りや駅伝大会の応援、婦人会や民生委員のボランティアのほか、災害時には地区住民の応援を得られるような地域との交流を図っている。しかし事業所が住宅地から少し離れていることもあり気軽に訪問できるような環境ではなく地域との付き合いについては苦慮している。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価の改善課題に基づき、管理者と職員間で話し合い「地域から必要とされる事業所」を基本に掲げ、より地域に根ざした事業所を目指す新しい理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新たな理念として管理者からの提案と職員間の話し合いの中から前回の外部評価の課題に沿って作り上げている。また共有と実践については全体会議においてそのつど確認し合い、職員間の様々な意見が話し合いの中で自然と理念に沿った形で結論が出るようになっていく。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭、盆踊りや駅伝大会の応援、婦人会や民生委員のボランティアのほか、災害時には地区住民の応援を得られるような地域との交流を図っている。しかし事業所が住宅地から少し離れていることもあり気軽に訪問できるような環境ではなく地域との付き合いについては苦慮している。	○	地域の講和や老人クラブでの講演など積極的に取り組まれているので、その際の「お茶のみのお誘い」など、積極的なアプローチを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、事業所のあり方や、個人のサービスのあり方の自己点検として活用し、職員相互で話し合い作成し、主任が点検し管理者が確認している。前回の評価については運営推進会議に報告し、事業所の理念については外部評価を基に改善する事ができている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年4回開催され、自己評価及び外部評価について報告し、グループホームの生活状況など理解される状況になっている。その上で、災害対策や事業所便り、医療機関との連携など報告し意見をいただいている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	要介護認定の更新等の機会などに連絡を行うとともに、市の福祉協力員の月1回の訪問を受け、利用者の相談等をお願いし、指導など受けやすい状態に努めている。	○	市町村とは、介護保険制度の問題点や、制度上の限界など問題点を共有する意味でも、積極的にアプローチできるような仕組み、取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や、体調の変化時など暮らしぶりや健康状態の報告は行われている。申し出があればカルテなどの開示も行っている。ユニットごとのお便りは、利用者全員の暮らしぶりが伝わるように写真を活用した構成になっており、行事や職員の異動なども記載され毎月発行されている。金銭管理については、収支残高、領収書を月末に閲覧してもらい承諾を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所が出来ること、出来ないこと、家族の協力が必要なことを忌憚なく家族等に話すことにより信頼関係を構築し、意見苦情を言ってもらえるような関係が出来ている。苦情窓口の告知や、意見箱の設置など意見を表せる機会を設け、家族等の意見苦情については迅速に対応策を改善委員で話し合い結果を伝え、運営推進会議に報告するとともに法人の理事会、評議会に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意見などを取り入れて主体性を持たせることで働きやすい職場作りに心がけ、離職を減らす努力をしている。離職や長期の休暇などは引継ぎに十分な時間を確保し、利用者へのダメージに配慮している。又、年に1回程度のユニット間の異動は行うが利用者との相性などを考慮しながら行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づいて、各種研修会に参加している。又、外部研修会に参加したときは、毎月の全体会議の中で報告を行い職員全体に周知するようにしている。毎月訪問看護ステーションより看護に関する講義を受け勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、職員は、協会が主催する職員の一泊交換実習により他の事業所との交流を行っている。又、協会からの情報は管理者を通じて職員に伝えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩として様々な経験からの人生についての考え方など教えて頂いているとともに、梅干、ちまき作りなど様々なことを教わっている。又、行事などは、職員の自由な発想に基づき、花火見学、カラオケなど職員と利用者が一緒に楽しめるような機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思い、希望、意向については、アセスメント、モニタリング等で把握するとともに、職員は見守りをしながら利用者が自主的に過ごす時間を通じて、本人の希望、意向を発見している。困難な場合は、利用者の身振り、しぐさなどを観察し把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族等の希望を踏まえ、職員全員のカンファレンスで検討し、場合によってはかかりつけ医や関係者の意見を伺い作成している。日々の申し送りノートから意見やアイデアを出し合い検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、年1回の再アセスメントや、3ヶ月に1回定期的なモニタリングを基に見直しを行う。状態の変化や、新たな課題が生じた場合などはそのつど、計画の評価、目標の達成状況の検討を行い、本人、家族、スタッフ間で話し合い現状に即した介護計画に見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	入居の際にかかりつけ医の継続か協力医療機関か選択をし てもらっている。協力医療機関以外の医療機関については 原則は家族による通院ではあるが、場合によっては通院支援 も行う。かかりつけ医の通院際には、利用者の状況の説明 や、医師の診断内容など情報の共有を図っている。協力医 については毎月1回往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	現状では終末期のケアのあり方には制度上の問題などもあり 難しい状況である。こういった問題点を含め家族、医師スタッ プは段階に応じて話し合い、方針の共有を行っている。一人 終末期を看取る機会があったがやはり難しい問題があり、こ の経験を踏まえ今後も関係者と話し合いを行い個々のケース について方針の共有に努めていく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	職員は、お互いに排他など声かけに工夫をし羞恥心に 配慮し対応には注意を払っている。投薬等を知られた くない入所者には時間などを考慮し目で合図できるよ う工夫をしている。また個人情報に関しては使用目的を 明示した同意書など取り交わしを行い管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表は介護計画上の個々の生活リズムの目安であ り、基本的には利用者の希望を重視している。しかしな がら利用者全員で行うべきものについては声かけなど の工夫で本人の主体性を尊重しながら参加できるよう 配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力や希望にあわせ手分けして準備や後片付けなど行っている。日曜日は利用者の希望に基づく献立を立て、買い物に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事業所のお風呂は温泉であり、週3回入浴している。希望によりシャワー浴・部分浴・清拭などに代えることもある。入浴時間帯は概ね3時から6時であるが、特に決められたものではない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や習慣についてはアセスメント時に把握しているが、モニタリングや日々の生活から新たな発見をしている。自由時間には絵や裁縫など以前の楽しみごとを継続できるよう支援している。役割などについては本人が自然に見出している。誕生会は、個々の誕生日に行うが、その誕生会の内容は利用者本人が企画することしカラオケ、ドライブ、外食など楽しみごと・気晴らしの一環として行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩については天候にもよるが、一日に1回支援している。事業所のそばにある神社や、併設事業所のウサギ小屋、近所の川原など本人の希望に沿うよう行っている。又、ドライブなど状況や希望に応じて行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	開設以来鍵はなるべくかけない方針である。事務室は両ユニットの玄関の間にあり、外出者の確認も容易であり、玄関にチャイムで外出を知らせる工夫をしている。また一人で外出する方の把握も出来ており職員は安全に配慮している。隣接する法人の事業所との連携もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については年5回から6回避難訓練を行っている。又、1回は地域からの応援要員も参加している。水害や地震についても避難訓練を実施していきたいと計画している。	○	夜間災害を想定した避難訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した栄養バランスに配慮した献立である。栄養摂取量については日々記録している。水分摂取量についても、職員は一日の摂取量の目安に基づき支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室は温泉であり、その温水を利用し床暖房になっている。トイレは二人に1つの配置である。玄関はそれぞれ季節感を表す飾り付けがある。それぞれのユニットは個性的で、1つは中庭がありその一方は食堂であり、中庭に面した窓からは季節に応じた柔らかな日差しが差し込み、シンボルの紅葉は季節感を醸し出している。他方は廊下の天井が高く広い空間を演出し、高い天窓からは柔らかな日差しが差し込んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	パンフレットには使い慣れたものの好みの物の持込みが出来ることの記載があり、本人の使い慣れた家具、仏壇、好みの調度品、家族の写真など本人の思い思いの品が配置されている。		